

2012年度第2回 鋼構造運営委員会議事録

日時： 2012年9月11日（火） 15：15～17：15

場所： 名古屋 安保ホール

出席者： 緑川主査，岡本，河野昭彦，桑村，向野，河野守，佐藤，吹田，田川，多田，田中，玉井，  
成原，西山，藤澤，藤田，寺田

欠席者： 井戸田，小河，越智，笠井，金子，澤本，竹内，中込，中島，山田

資料：

02-01 2012年度 第2回鋼構造運営委員会議事予定	(緑川)
02-02 2011年度 第1回鋼構造運営委員会議事録 (案)	(寺田)
02-03 構造本委員会 (7月25日) 資料抜粋	(緑川・寺田)
02-05 鋼構造接合小委員会2012年度第2回議事録 (案)	(田中)
02-06 2012年度 第2回 鋼構造制振小委員会 議事録 (案)	(緑川)
02-07 鋼構造耐火設計小委員会 第10回 議事録	(河野守)
02-08 鋼構造環境小委員会 2012年度第2回議事録	(藤田)
02-10 2012年 鋼構造塑性設計小委員会 第1回 議事録 (案)	(玉井)
02-11 2012年度 第2回 東日本大震災鋼構造被害検討WG議事録 (案)	(緑川)
02-12 関連書籍に関する質疑回答一覧	(多田)
02-13 鋼構造運営委員会主査選挙規定 (資料 -04, -09は欠番)	(緑川)

議事

1. 前回議事録の確認(資料02-02, 寺田)

- ・事前配布された議事録案に対する修正指摘事項はなく、議事録は承認された。

2. 構造本委員会報告(資料02-03, 寺田)

- ・資料に基づき、7月25日開催の構造本委員会の議事が報告、議論された。主な点は下記の通り。
- ・AIJデジタルライブラリーにおける過去の大会PD資料の会員限定無償公開については、2011年度のPD「座屈に関する諸問題」以外は、無償公開「可」とすることとなった(9/11事務局に回答済)。
- ・9月11日構造本委員会において、鋼構造運営委員会関連の下記委員の追加が承認された。  
鋼構造塑性設計小委員会 岩間和博委員(竹中工務店)  
東日本大震災鋼構造被害検討WG 山田哲委員(東京工大)，長谷川隆委員(建築研究所)，  
松本由香委員(横浜国大)，石原直委員(建築研究所)
- ・各小委員会主査は、10月19日までに来年度の活動計画および予算原案を緑川主査まで提出のこと。
- ・大会において、梗概の内容と発表セッションが整合していない例や同じ内容が別々の分野で発表され(例えば、木質ハイブリッド構造が鋼構造と木造に分かれてしまっているなど)、発表分類に関して課題との指摘があった。

### 3. 各小委員会報告

資料等に基づき各小委員会の活動が報告・審議された。主な点を記す。

#### 1) 座屈小委員会

- ・「座屈に関する諸問題2013」の鋼構造運営委員会査読対応中である。9月18日までに査読に対する回答を作成し原稿を修正する。その後、構造本委員会査読を経て年内脱稿、2013年5月刊行を目指している。構造本委員会査読は、植松康委員および壁谷澤寿海委員が担当する。

#### 2) 接合小委員会(資料02-05, 田中)

- ・3月に出版した接合部設計指針第3版(改定版)の1刷が売り切れ、現在2刷の段階となっている。講習会以来多くの質問が寄せられているが、ほぼ回答済である。
- ・同時に今後の活動について検討し、高力ボルト設計施工ガイドブックの改定や「柱脚設計の諸問題(仮)」の出版等が候補となっている。

#### 3) 制振小委員会(資料02-06, 緑川)

- ・2013年9月刊行を目標に、鋼構造制振設計指針を鋭意執筆している。

#### 4) 耐火設計小委員会(資料02-07, 河野守)

- ・鋼構造建物の高温時の特性など、ユーロコードなども参考に調査中。耐火設計指針の各章を充実させるよう検討している。
- ・2016年頃を目処にした耐火設計指針改定の前に「耐火設計に関する諸問題(仮)」の刊行も考えている。

#### 5) 環境小委員会(資料02-08, 藤田)

- ・小委員会では、大会PDの準備、内容の摺合せが主な内容である。
- ・解体後の部材リユースにあたり、非破壊で品質を調査し「簡易版ミルシート」を発行する必要があるが、誰がその品質を保証するかなど大きな課題であろう。

#### 6) 素材小委員会(成原)

- ・材料の機械的性質の統計データに関する2次調査結果まで今回の大会にて発表している。さらに鉄骨ファブを対象に3次調査を実施し、データの蓄積を図っている。
- ・データの内容や整理方法など、12月の鋼構造運営委員会の重点審議事項とする。

#### 7) 塑性設計小委員会(資料02-10, 玉井)

- ・従来の指針は、主に塑性耐力に着目し塑性変形の限界については扱っていなかった。しかし、実際には塑性変形には限界があり、指針ではその限界を超えた時の対応を記述することも必要と考える。
- ・指針で記述するのは部材の保有性能とし、要求性能については設計とも関連するので指針では記述しにくいと考えられる。
- ・部材の保有する塑性変形能力や、設計でそれを越えた時の扱いなど、小委員会で引き続き議論していく。

#### 8) 東日本大震災鋼構造被害検討WG(資料02-11, 緑川)

- ・2013年9月を目標に報告書を作成する。今まで2回のWGを開催し、主に執筆方針・目次構成について議論し絞り込んできた。
- ・報告書には「個別事例」を含めたいので、建設会社の協会である日建連構造設計専門部会に資料提供を依頼する。

#### 4. 2013年度大会PD案について(緑川)

- ・10月末までにPD案を事務局提出する必要がある。
- ・鋼構造PD候補（担当小委員会）としては 第1：素材，第2：塑性設計とする。

#### 5. 関連書籍に関する質疑回答一覧(資料02-12, 多田)

- ・各種合成構造設計指針を担当する小委員会が今はないので，合成構造設計指針関連の質疑に対しては，田川委員に取りまとめをお願いします。
- ・引き続き，会員からの質疑に対しては，担当の小委員会にて対応をお願いします。

#### 6. 鋼構造運営委員会次期主査選挙について(資料02-13, 緑川)

- ・現主査の任期が2013年3月で2期4年満了となるので選挙規定に基づき来年度の主査選挙を実施する。スケジュールは下記の通り。
  - ①投票用紙発送（事務局） : 9月末まで
  - ②投票用紙必着 : 10月19日（金）
- ・被選挙権者は建築学会正会員とするが，過去の鋼構造運営委員会主査経験者は除く。
- ・開票等は，幹事団において実施する。
- ・また，鋼構造運営委員会は60歳定年とされた時期があるが，特に明文化した規定はなく現在はこれに囚われないことになっている。なお，委員の交代，引き継ぎにつきましては，各委員のご判断にて実施してください。

#### ■次回鋼構造運営委員会

- ・2012年11月28日（水）構造本委員会開催後で12月中とし，下記候補日から委員の出席可能状況を基に設定する。候補日：12/6，12/7，12/13，12/17，12/18，12/20，12/21。

以上（記録：寺田）